

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 揖斐		
所在地	揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	平成25年6月18日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600027-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの生活歴や性格を尊重し、各個人利用者様の生活リズムに合わせたケアを、身体機能や認知症状に応じて支援しております。利用者様がみえるからこそ私達職員がケアをさせて頂けることを念頭に、接客業＝サービス業であることに力を入れ、スキルアップ研修会など接遇の勉強に取り組んでいます。利用者様・ご家族様が少しでも満足頂ける喜びにほこりを持ち、職員同士サービスの向上に努め、笑顔で楽しく仕事が行えるよう管理者と共に職場環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな樹の下で、地元の人と会話を楽しみ、笑い、思い出話に花を咲かせ、語り合い、気持ちを分かち合うよりどころがグループホーム「ぬくもりの家」である。代表者の設立の原点は「自分達が年を老いたとき、自分らしい時間を、住み慣れた地域で過ごしたい、一緒に笑える人と」の熱い思いである。代表者自ら泊まりの業務に就き、改善点を十分に話し合い、職員、利用者と共に満足と喜びを分かち合える関係を築いている。さらに、職員が子育てや家庭内の高齢者支援が十分にできるように、職場環境を整えている。その結果、職員の定着率も良く、資格取得や専門のスキルを高め、質のよいサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に掲示したり、名札の裏に印刷していつでも確認できるようにしている。また、年度初めに職員全員で研修を行い、意識の向上に努めている。新人研修でもその都度理念を挙げ、周知徹底に努めている。	「利用者の権利を尊重・安全で信頼の関係・地域密着した生活・地域医療との連携・専門職としての日々努力」を理念としている。理念は、名札や目のつく場所に明示し、また、職員会議で意識を高め、最も手厚い生活を合い言葉に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や奉仕活動、清水全体で行うふるさと祭りや、揖斐川町主催の福祉フェアに利用者様と参加している。また、併設されている接骨院のお客様が出入りされ、近隣の方とのなじみの関係の継続につながっている。	町内会に加入し、地元の清掃行事や奉仕活動に積極的に参加している。ふるさと祭りに参加したり、ホームの夏祭りに招待し、花火大会の見学場所を提供するなど、地域との付き合いを大切にしている。中学生の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談ができるように看板に表示したり、ポスターを施設内に貼っている。運営推進会議で活動報告や事例報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、高齢福祉課の職員・区長・民生委員・利用者様家族にご参加頂き、現状報告を行い、ケアや活動について意見を頂き、少しでもサービスの向上になるよう取り入れている。	運営推進会議を隔月に開催し、区長、行政、民生委員、家族が参加している。現状報告に合わせ、地域の福祉施設の課題など広範囲に話し合い、サービスの向上や職員研修に役立てている。利用者の健康管理と熱中症などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課主催のケア会議に参加し、施設同士の情報交換や、各地区の民生委員より独居高齢者の相談を受け、行政からの意見も聞き、サービスの向上につなげている。	行政とは密に連携し、訪問、電話等で情報の交換をしている。困難事例、地元高齢者の相談など指導を受け、地域貢献、利用者サービスにつなげている。行政主催の研修会には、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を職員全体で行い再確認をしている。緊急やむを得ない場合は、施設長・ご本人・ご家族様に説明し、同意のもと慎重に行っている。	身体拘束に関する外部研修に参加し、事業所内でも拘束ではなく、如何に安全な介護で支援できるかを具体的に検討している。利用者の心の、行動を拘束することのないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を職員全体で事例をもとに検討し、再確認している。また職員がストレスを溜めないよう、お互い気軽に話ができる環境作りに努め防止している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部の研修に積極的に参加し、職員全体でも研修を行っている。特に成年後見制度は、必要と思われる場合にはご家族様に勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、資料をもとに時間をかけて文章の読み合わせと共に説明を行っている。納得されるまで質問に応じ、その後の疑問点もいつでもご連絡頂けるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回行われている外部評価時のご家族様アンケート結果をもとに、職員全体で議論しケアの向上に努めている。普段のご家族様の要望は、面会時や担当者会議で伺っている。また、意見箱を設置し対応している。	利用者の日常生活の様子、健康状態、食事摂取量、写真など近況報告を家族に送り家族の要望、意見を求めている。毎月のメニューを知りたいとの家族の求めに、献立表を送付している。とくに家族の訪問時には、意見や要望を丁寧に聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議に管理者も参加し、各職員から要望書を提出してもらい、それについての改善策や対策に応じている。よくする会を毎月第一金曜日に開催し、4施設の情報をもとに意見交換をし、働きやすい環境、職場作りと運営に反映させている。	毎月の全体会議は、職員からの意見書として提出した題材を元に検討し、話し合いをしている。ケアの取り組み、器具の取り扱いなど改善点で方向性を見出している。職員は、代表者や管理者に、提案、意見が気軽に発言できる環境ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じ適材適所に努め、意欲的に働けるよう配慮している。また、子育て中や定年した職員もやりがいを持って勤務できるよう勤務時間も考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為、職員の能力にあった研修に参加してもらっている。また、施設内でも毎月研修を設け知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者・ケアマネージャー・職員に外部の研修に参加する機会を設け、同業者との交流を深められるよう努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の考え、要望等を知る為、見学や面会を重ねて希望される生活を話し合い、アセスメントを作成している。アセスメントをもとに職員全員が情報を共有できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、ご要望や不安、悩み、改善されたいこと等を伺っている。アセスメントをもとにご家族様の希望される良い介護計画が立てられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のご要望に重点を置き、あらゆるリスクを考慮したうえで、最も必要とするサービスを検討する。必要のある時は関係機関と連携し、サービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、庭や畑、洗濯や清掃など無理のない程度に役割を持って頂いている。利用者様に学ぶことも多く、お互い感謝の気持ちで支え合い、たくさんの笑顔で生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の心身の状態や外出、活動報告を行っている。また定期的に近況報告書を郵送し、面会に来られない方にも普段の生活を知って頂けるようにしている。また定期的に家族交流会を行い、信頼を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望のもと、ご家族の承諾を頂いたうえで、友人やご親戚に面会に来て頂いている。また親しい方に年賀状を作成したり、行きつけの喫茶店や地域の祭りに行き、関係を継続できるよう努めている。	隣接する接骨医を地元住民が利用し、利用者も受診することで馴染みの関係が継続できる。また新たな出会いがある。家族の訪問も多く、他の家族との馴染みもできている。遠方の馴染みの場所へは、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの人生観や性格、要望を考慮し、お互い心穏やかなコミュニケーションができる居場所を提供している。また、誤解を生じさせない為に職員が見守り介入している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の心身状態を介護サマリーに記録し、継続してスムーズな支援が行えるよう情報提供を行っている。サービス終了後もご家族の相談に応じたり、経過を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や言動の中からご本人様の要望、希望も含めケアプラン作成時に相談したり、ご家族からは意向書を頂いたりしている。面会や電話の都度相談して頂いて要望に沿えるよう努めている。	個別対応の場や、日常会話のなかで糸口を見つけ、思いや意向を把握している。ケアプラン作成時に家族からの意向書で情報を得るなど希望に添って、個々に満足した生活を送ることのできる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・関係機関より情報提供書や介護サマリー等を頂き、これまでの生活歴、環境、人生を把握しアセスメントに記入している。それらを尊重し、その人らしさを大切にしたいサービスを提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの日常生活の様子や身体状況、認知症状、介護状況などのリスクを含め、ご本人・ご家族・関係機関より情報提供書を頂き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、必ずご家族に意向書を頂き、担当者会議で話し合っって計画を立てている。介護計画の内容をご家族に説明し納得して頂けるものとしている。介護日誌にケアプラン目標を載せ、職員が日常的にモニタリングができるように工夫している。	職員は、介護記録の検討や状態のモニタリングを日常的に行っている。家族や利用者の意向、医師や専門職の意見を踏まえて、介護計画を作成している。3ヶ月毎に、現状に即して柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護日誌記録簿に記入し、一日の様子や身体状況、ケアプランサービスが実施できたかの有無等も情報共有している。心身共に変化するリスクや可能性に合ったケアプラン目標ができていないか常に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう各職員の能力を生かせる職場となっている。併設されている接骨院医師によるリハビリ、栄養士による食事療法、レクリエーション等各分野にて対応している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源を活用して生活できるよう支援している。祭りや行事に参加したり、幼稚園児や近所の子供会の子達に慰問に来てもらい交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を伺い、馴染みのかかりつけ医を継続して頂いたりしている。体調変化時はかかりつけ医に状態を報告し指示を仰ぎ、迅速に連携をとり、医療が受けられるよう支援している。受診は原則ご家族で対応してもらっているが、希望や依頼がある時は職員が対応している。	契約時に説明し本人、家族が自由にかかりつけ医を選択している。協力医は、月に2回の往診がある。受診は、原則家族対応であるが、医師の指示により「状態報告書」に明記し、連携している。緊急時は、職員が同行し、適切な支援体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時に気になること等、その都度看護師に相談している。また主治医と連携を図り、迅速に対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必ず介護サマリーを作成し情報提供している。入院時も面会して様子を観察し、途中経過もご家族やソーシャルワーカーに伺い、退院後も受け入れられるよう努めている。また連携会議にも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の段階で終末期の対応も説明している。重度化する恐れのある場合、再度ご本人、ご家族の要望を大切に、主治医・医療機関と連携を図りながら対応している。看護師が看取り介護の対応をできる体制となっている。	契約時に事業所の方針を説明し、家族の意向を確認し「事前指定書」を交わしている。早い段階で利用者の状態を家族、主治医、関係者が十分に検討し希望に添った取り組みをする。看取りの介護体制は、整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のリスクを把握し、緊急時に備えて定期的に職員全体で研修を行っている。連絡体制も見やすい場所に貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと定期的に防災訓練を実施している。区長や民生委員、ご近所の方に参加して頂き救助訓練を行っている。また、災害や地震に備えて資料をもとに勉強会を行っている。	年に2回、夜間想定を含め、火災訓練を消防署立ち会いの下で実施している。近隣の協力体制もあり、避難場所、関係機関との連携もできている。地元の防災訓練にも参加している。	事業所の設置場所(揖斐川水域)における、地震、水害についての課題を、運営推進会議で検討することを期待したい。

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、優しく丁寧に敬語で対応するように心がけている。お年寄りがリラックスし話しやすくなるよう落ち着いた環境を作るよう支援している。	人生の先輩としての敬う心、誇りやプライバシーを損ねない会話や言葉使いをしている。利用者がゆったり、安心して話すことのできる雰囲気を作り、笑顔の絶えない生活支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの押し付けにならないよう、自己で選択できるように言葉掛けを行っている。自己決定が不可能な方には、表情や行動により思いを読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした穏やかな時間、他者との関わり合い、自分を大切に時間等個々の生活ペースに合わせ支援するよう努めている。状態が悪いからと寝かせっきりにするのではなく、体調に配慮しながら離床を進める支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容を行い、一日を気持ち良く過して頂けるよう支援している。服を選ぶ「自分で決める」ということがストレスにならないよう話題を提供し、一緒に選び楽しんで頂いている。ご自分でできない方も清潔に保てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の野菜を収穫して頂いたり、下ごしらえ(豆の筋取り・落の爪むき等)を一緒に行うことで、食べることの楽しみを味わって頂けるよう支援している。	経験豊かな利用者が、職員と共に庭で野菜作りを楽しみ、食材にしている。職員もテーブルで利用者と共に同じ食事をし、自分たちで収穫した野菜の保存方法、料理方法など、楽しい話題づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や調理師がカロリー計算を行ったうえで献立を作成している。個々の状態に合わせて(嫌いな物)代替え提供し、一日のカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人ひとりに声掛けをしながら行っている。自力でできない方には個別で支援している。義歯の手入れ、うがい等はほとんど支援にて行っている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や行動を見ながら個々に誘導を行い、なるべくトイレで排泄していただけるように支援している。入居時におむつを使用していた方も、排泄パターンを知り、トイレ誘導をすすめている。	利用者の動きや、しぐさで声掛けを行い、トイレへ誘導している。排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が普通であることを、利用者が感じる支援をしている。見守りで、自立の人が多くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表から便秘していることが分かったら主治医に相談、薬を処方して頂き対応している。また、冷たい牛乳や水を飲んだり、歩ける人には歩くように勧め対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回曜日を決めて行っているが、体調や希望を聞き、無理せずしばらくしてから再び声を掛けたり、別の日に入って頂いたりしている。ゆったりした気分に入って頂くように支援している。	入浴は原則週2回である。希望者は、好みの回数に合わせたり、個々に即した入浴支援をしている。また、個浴を楽しんだり、季節感を取り入れ、ゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息して頂くようにしている。眠くないという場合は無理に寝ていただくのではなく、話しをするなど楽しいことが残り安眠できるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れがないか毎食時やその他の時間に確認し、体調変化や改善が見られた時は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を考慮し、畑仕事、庭の草むしり、掃除や洗濯たたみ等生きがいのある生活を送れるよう支援している。また、喫茶店や庭での食事など楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞きながら、買い物や喫茶店、近所の散歩など出かけるようにしている。また、ご家族様と協力して墓参りや寺参り、温泉など本人の希望ができる限り叶うよう努めている。	利用者の状態に合わせ、日光浴、外気浴を庭で楽しんだり、近隣を散歩している。買い物や喫茶店、寺参りなど日常的に支援をしている。年間行事で、日帰り温泉旅行や紅葉狩り等に出かけている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は、外出の際に自分で買い物して頂いている。また、できない方は小口資金としてお預かりし、希望があれば必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によって家族の方に電話したり、手紙を出したりと、個々に対応支援している。12月末にはご家族や親しい方に賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の間では、個々が落ち着いて自由に過ごしていただけるようソファやテーブルを設置している。懐かしい音楽CD、心地良い工夫、季節の草花を飾り季節感を感じていただくなど配慮している。	天井が高く、共同の空間から窓越しに、田園、山並みを眺め、季節感を味わう事ができる。和服をリサイクルした作品を掲示し、落ち着いた雰囲気づくりをしている。季節の花を飾り、広いソファで、居心地よく寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士、お年寄りがリラックスして話しやすくなるよう、ソファやテーブルセットを配置して落ち着いた環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家具や仏壇など馴染みの物を居室に持ってきて頂くことにより、落ち着いて生活して頂けるよう家族に協力して頂いている。家具の配置は安全第一に考慮して生活して頂いている。	ベッド、タンス、テーブル、ソファを設置している。使い慣れた馴染みの鏡、整理タンスなどを家族と共に使い易く配置し、思い出の写真や手作りの作品を飾り、居心地よく暮らすことのできる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が各々の身体能力に合わせて生活できるように環境面に配慮している。バリアフリーの構造によりつまずくことなく歩行。車椅子でも活動的に生活でき、自立した生活を送ることができる。		